



# きさらづし 農委だより

令和6年4月1日

第50号

発行：木更津市農業委員会  
編集：農業委員会事務局  
電話：0438(23)8693



(左から) 地曳周嶺さん・末智さん・友理江さん・公伯さん

JBK FARM の地曳<sup>たかお</sup>公伯（兄）さん、周嶺<sup>あまね</sup>（弟）さん兄弟は、共に大学で農業を学び、生まれ育った万石地区で農業に従事する若手農家。公伯さんは、ブロッコリー、とうもろこし、長ねぎ、カリフラワー等の野菜類、周嶺さんは、マリーゴールド、球根類、アスター等の花卉類を栽培し、農業を通して木更津の魅力を伝えたいと考えています。

（公伯さん）栽培面積が一番広いのはブロッコリー。農業を始めた当時、国産品は少なく高収益作物としての需要が見込まれ開始した。とうもろこしは木更津市の主要品目の一つで、市場やスーパー等への出荷以外に、自ら販売でき収益性の高いのも魅力。敷地内に JBK FARM の直売所を設け、妻が直売所の運営、マルシェ、宣伝等を行っている。おかげで、自分が納得のゆく野菜を作ることができ感謝している。何よりも、万石の農産物を地域の人に食べてもらえ、農業を通して地域への関心を持ってもらうきっかけになっている。将来は、学生時代に専攻していた果樹栽培を行い、観光果樹園として地域の皆さんに愛される農家を目指している。

（周嶺さん）きっかけは、父親が花を栽培していたのを見て育ったこと。子供の頃から温室を遊び場としていたが、使われなくなった温室が荒れていくのをなんとかしたいという思いもあった。花の市場価格が下落する中、成功する人の存在を知り、父から引継いで始めた。球根類を主体にし、南アフリカ原産のオーニソガラム等15品種の球根類を切花として東京大田市場や地元の花屋等に出荷している。中郷に井戸水が自噴する自作地があり、ゆくゆくは井戸水を使った園芸栽培を始めたい。

会長あいさつ

木更津市農業委員会 会長 杉山 孝



農家の皆様には、日頃より農業委員会活動の推進にあたり、ご理解ご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

昨年七月、第二十五期農業委員会の会長を仰せつかりました。新たに市長から任命された十八人の農業委員と農業委員会が委嘱した十九人の農地利用最適化推進委員とが連携・協力し、農業者の地位安定と地域農業の振興のため努力していく所存ですので、何卒よろしく願います。

まずは、令和六年一月一日に発生した能登半島地震で亡くなられた方々に、心より哀悼の意を表しますとともに、被災された方々にお見舞いを申し上げます。今もなお、大勢の方が避難生活を余儀なくされておりますが、被災地の

一日も早い復旧・復興を心から願っております。

本市農業を取り巻く状況は、昨年は異常気象による猛暑が続き、水不足に見舞われ、基幹作物である米にも影響を及ぼしました。

このような中で、「令和五年度木更津産米食味分析コンクール」が開催されたほか、新潟県中魚沼郡津南町で開催された「第二十五回米・食味分析鑑定コンクール国際大会 in つなん」では、都道府県代表お米選手権の金賞に鈴木康元さん（下郡）が、小学校部門特別優秀賞に木更津市立鎌足小学校が受賞されました。この事は大変喜ばしく、本市の農業者のモチベーションアップに繋がるものと感じております。

また、第二十期から第二十四期まで五期十五年の間、農業委員会会長職を務められた安藤一男氏が、長年のご功績が認められ、令和五年十一月三日付をもって旭日単光章の栄に浴されましたこと、農業

委員会といたしましても大きな誇りであります。

農業委員会では、「農地法等に基づく法令業務」の適正な実施や「農地の利用の最適化の推進」業務である、遊休農地の発生防止と解消、担い手への農地利用集積、新規参入の促進活動に務めてまいります。また、これまでの「人・農地プラン」から法的に位置づけられた「地域計画」策定に向け、十年後に目指す地域の農地利用を示した「目標地図素案」の作成について、地域の農業者とともに進めてまいります。また、木更津市が推進する「オーガニックなまちづくり」の一環である、未来を担う子どもたちに「食」を通して、農業への関心を高め、食育や地産地消の促進に繋げるためにも、農家の皆さんと協力して学校給食米一〇〇％有機化に向けた取り組みにも積極的に参加してまいります。

今後、農業者が、将来に希望が持てるような地域作りのためにも、皆様方のより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願いし、挨拶いたします。

令和六年度の総会日程

農地を耕作する目的で売買・貸し借りする場合や、市街化調整区域内の農地を農地以外に転用（用途変更）する場合は、農業委員会または知事の許可が必要になりますので、事前に許可申請をしていただき、農業委員会総会で許可・審査をします。許可を受けずに売買や貸し借り、転用をしている場合は違反となりますので、必ず事前に許可申請をしてください。

【農業委員会総会日程表】

総会開催予定日		許可申請書 提出期限
9回	4月8日（月曜）	3月18日（月曜）
10回	5月8日（水曜）	4月16日（火曜）
11回	6月7日（金曜）	5月16日（木曜）
12回	7月5日（金曜）	6月17日（月曜）
13回	8月6日（火曜）	7月16日（火曜）
14回	9月9日（月曜）	8月16日（金曜）
15回	10月8日（火曜）	9月17日（火曜）
16回	11月6日（水曜）	10月16日（水曜）
17回	12月9日（月曜）	11月18日（月曜）
18回	1月8日（水曜）	12月16日（月曜）
19回	2月7日（金曜）	1月16日（木曜）
20回	3月6日（木曜）	2月17日（月曜）

※総会開催日は変更になることがありますので、申請等がある場合は事務局にご確認ください。



# 地域計画を策定します！

## 地域計画策定の経緯

現在、農業者の高齢化や、荒廃農地の拡大により、地域農業を持続することが難しくなっています。今後、担い手への農地の集積・集約化に向けた取り組みが、今まで以上に必要となります。

このような状況の中で、農業経営基盤強化促進法が改正され、市町村は、令和5年から2年間で「地域計画」を策定することとなりました。

## 地域計画とは

○市内全域で、目指すべき将来の農地利用の姿を明確にするための計画です（市街化区域を除く）。地域農業の将来の在り方や、10年後に目指すべき将来の具体的な利用の姿を描いた農地の地図（目標地図）等を定めます。

### 地域計画

#### 地域農業の将来の在り方

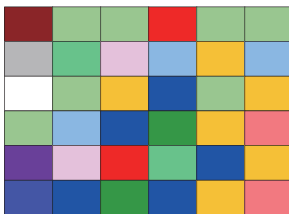
地域農業者や関係機関などで協議

#### 目標地図

アンケート調査・話し合いにより作成

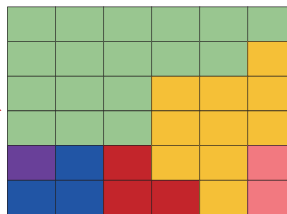
## 目標地図のイメージ

現 状  
(耕作者のばらつき)



現況地図を基に農地の出し手・受け手の意向を踏まえ、作成します。作成後も見直しができます。

目標とする農地利用  
(集積・集約、遊休化の防止)



生産効果↑

【出し手の意向】  
貸したい、売りたい… 等

【受け手の意向】  
経営を拡大したい、ほ場整備したい… 等

### 目標地図とは？

10年後に誰がどこの農地を耕作しているか、将来の農地利用の姿を関係者で協議し、農地の出し手・受け手の意向を反映して、地図上に落とし込んだものです。



円滑な地域計画策定のために、アンケート調査等へのご理解・ご協力をお願いいたします。

# ご存じですか？ 相続登記が義務化されます！ 令和6年4月1日スタート

相続登記がされないため、登記簿を見ても所有者がわからない「所有者不明土地」が全国で増加し、周辺の環境悪化や公共工事の阻害など、社会問題になっています。これまで任意だった相続登記が義務化されます。

## 相続登記の義務化とは？

相続人は、不動産（土地・建物）を相続で取得を知った日から3年以内に、相続登記することが法律上の義務になります。

また、令和6年4月1日より前に相続した不動産も、相続登記がされていないものは、義務化の対象になります。（3年間の猶予期間があります。）

正当な理由がないのに相続登記をしないと10万円以下の過料が科される可能性があります。

## 申請について詳しいことは

遺言による場合や遺産分割協議による場合など、ケースによって必要書類が異なるため、詳しくは法務局へお問い合わせください。 千葉地方法務局木更津支局 0438-22-2531

## その行為、違反かもしれません

ー農地転用は必ずご相談くださいー

農地転用をするときは、転用する前に農地法による手続きが義務づけられています。市街化調整区域内にある農地は転用が厳しく制限されており、許可なく転用すると農地法違反となります。なお、砂利を敷く・土を入れる・簡易な倉庫をつくるという行為も手続きが必要となりますので、必ず事前に農業委員会までご相談ください。

また、市街化区域内にある農地は、事前に届出が必要です。詳しい手続き方法については、お問い合わせください。



### 農地法に違反した場合の罰則

3年以下の懲役、または300万円以下（法人は1億円以下）の罰金



## 知って得する 農業者年金

農業者年金で生活の安定を考えませんか？

### 農業者年金の6つのポイント

- ポイント1** 農業者なら広く加入できる
- ポイント2** 積立方式・確定拠出型で少子高齢時代に強い
- ポイント3** 保険料は、月額2万円（35歳未満で政策支援加入の対象とならない方は1万円）から6万7千円の間で自由に決められる
- ポイント4** 終身年金。80歳前に亡くなられた場合は、死亡一時金がある
- ポイント5** 税制面での優遇措置がある
- ポイント6** 一定の条件を満たす農業者には保険料の国庫補助がある

農業者年金へは次の要件を満たす方ならどなたでも加入できます。

- 年間60日以上農業に従事
- 国民年金第1号被保険者（国民年金保険料納付免税者を除く）
- 65歳未満（60歳以上は、国民年金の任意加入被保険者）

※農業者年金に加入される方は、国民年金の付加年金（付加年金保険料月額400円）への加入が必要です。  
※農業者年金と国民年金基金（旧みどり年金を含む）及び個人型確定拠出年金（イデコ）とは重複加入できませんのでご注意ください。

ご興味のある方は、農業委員会までお問い合わせください。

全国農業新聞を  
購読しませんか

「全国農業新聞」は、全国農業会議所が発行する、経営と暮らしに役立つ農業専門誌です。

「週刊」を活かし、農政の動きや技術・流通など、農業に関する最新の情報をお届けしています。県内の農業の様子や、木更津市内の情報も掲載されており、また、紙面は見やすいオールカラーとなっております。



興味のある方はパンフレットをお渡ししますので、お気軽に木更津市農業委員会までお問い合わせください。

■発行日…毎週金曜日発行（月4回）

■購読料…月額七〇〇円（送料、税込み）

## 編集後記

農業委員会は、地域計画の策定に向けて、目標地図の素案を作成する役割を担いますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

▼編集部では、農委だよりに登場していただけた農家さんを募集しています。自身のことを紹介してほしい方、お知り合いの農家さんを紹介したい方のご連絡をお待ちしております。